

# LOFT

## 銀座ロフト、 新しい生活雑貨店のかたち

サステナビリティをキーワードにした店舗で  
現代のライフスタイルに欠かせない“食”にも  
初めて取り組んだロフト。  
雑貨店独自のフィルターを通したセレクトは  
「できることから少しずつ」の実践に役立つはず。



### ”雑貨のロフト”が発信する 今の消費のあり方とは

1987年の誕生時より、雑貨販売を通じて、時代の感覚やニーズを敏感に映し出ししながら、店づくりをしてきた「ロフト」。近年は地球環境の未来を見据え、本当に豊かで健康な暮らしを支えるべく、2019年4月に「銀座ロフト」をグランドオープン。店舗全体でサステナビリティをキーワードとし、日本各地の伝統的な物づくりの技に注目したり、初めて「食」に取り組んだり、新たな挑戦を始めている。1階の「ロフトフードラボ」では、ブランチャやカフェタイムに、時にはバーとして利用できるイートインスペースを展開。素材にこだわった限定スイーツやフルーツドリンク、厳選小麦と自家製酵母で作るパンなどを提供するほか、ピーガンやベジタリアン対応のメニューも用意。また同じフロアにて、独自のフィルターを通してセレクトした“食”アイテムを販売。おしさはもちろんのこと、従来のコンセプトである「デイリーギフト」に見合うよう、誰かに贈りたくなるようなパッケージのデザインにもこだわって厳選している。器や調理道具、料理本など、「雑貨+食」のギフト提案も魅力的なのは、「雑貨のロフト」だからこそ。ほかに、ヘルス&ビューティーのフロアでは自然由来原料のコスメや漢方の知恵を活かしたアイテム、インナービューティーとしてのフーズをラインナップ。

### 銀座ルーフガーデン

週に2回ほど、近隣のレストランのシェフたちが、ハーブを収穫しにやってくる。「鮮度が抜群なので、香りが素晴らしい。なかなか販売されていない花の部分が手に入るのもうれしいですね。例えばイタリアンパセリの花は、葉よりも風味がマイルドで、洗練された味なんです」とは近くのバーのバーテンダー。遊休地であった屋上緑地スペースの土を耕し、専門家に育て方や収穫時期などのアドバイスを受けながら、スタッフが持ち回りで水やりや除草を担当。最初は雑草との区別がつかなかった人も、自分たちで育てたものが素敵なメニューに使われているのを見て、今は愛着とやりがいを感じているとか。1階のカフェでは、収穫したイエルバ・プエナというミントを使ったモヒートを提供。¥650

### 銀座ロフト

「こだわりの“モノ”が揃い、新しい“コト”に出会い、発信する“ヒト”がいる」をテーマに、1～6階の6フロアに美容・健康雑貨、生活雑貨、文具など、約7万点をラインナップ。「自然」「ビューティー」「日本」「食」「ストーリー性」の5つのキーワードを軸に売場を編成。またロフト初のカフェ「ロフトフードラボ」を1階に併設し、食と雑貨が融合した売場を展開。

生活雑貨フロアでは、エコロジカルな素材を使ったストローや再生プラスチックを使ったテールブルウエア、人にも環境にもやさしいエコ洗剤などが勢揃い。また、日本の地域の自然素材を活かしたものや、その地域ならではの生活の知恵から生まれ、長く愛されてきた器や道具に注目し、改めてその魅力を伝えることにも力を入れている。さらにマイバッグ利用を推進するため、エコバッグの品揃えも充実。包装サービス不要の場合は、「ロフトアプリ」にエコスコアを付与する仕組みになっており、導入時よりアプリ会員の約40%がマイバッグ支持者となるなど注目度は高い。できることから少しずつ、サステナビリティを意識した活動を始めている。

屋上緑地を利用して無農薬でハーブを育てている「銀座ルーフガーデン」も新しい取り組みの一つ。収穫したハーブは、店内のカフェで使ったり、同じビル内や近隣のレストランやバーに販売するなど、銀座の地産地消にも取り組んでいる。7月からは、ハーブの店頭販売も始めたそう。今後も、時代のニーズを敏感に察知するロフトの提案から目が離せない。



# F R a u

gendai.ismedia.jp/frau

2020  
AUG. 8

SDGs



暮らしから世界を変える、  
サステナビリティBOOK



講談社 FRAU  
2020年8月号掲載  
illustration  
YUKO SAEKI